

しめる環境づくりを開始しました。

3月4日には、野田市聴覚障害者協会の依頼により総合福祉会館で講習会を開催し、25人が参加しています。

カローリングやペタンク、バツゴールのルールを、実際に体験しながら学んでもらいました。

講習会後のアンケートでは、「大変面白い体験でしたが、障がいのある方は遠出が難しいので、近隣施設で開催してほしい」との意見があったことから、市内各地域の公民館での開催に向けた準備を進めています。

### 地域の方によるサタデークラブ

学校の部活動や地域のスポーツ活動を含めて、スポーツは、「する」人だけでは成立しません。

「する」人の後ろには、「ささえて(育てる)」人がいることを忘れてはなりません。

特に、ジュニアスポーツは、保護者や地域の人々のボランティアの支えがなければ存続できません。「地域の子どもは地域で育てる」の考えのもと、小・中学生を対象

## 何歳でもどんな人でも 楽しめるスポーツを市民に



野田市スポーツ推進委員連絡協議会会長  
飯塚 正夫氏

飯塚正夫さんは、平成元年から約30年、野田市スポーツ推進委員(当時は体育指導委員)として

として、第1・第3土曜日の午前中にオープンサタデークラブを開催しています。

市内青少年健全育成団体や地域の方を講師に招き、日本古来の武道である柔道や剣道に加え、バレーボールやバドミントン、和太鼓、囲碁、将棋、書道、生け花な

て活動してきました。

現在、同委員連絡協議会の会長である飯塚さんは、「若い頃には野球に夢中でしたが、競技スポーツはどうしても年齢がつきものです。そこで出会ったのが、スポーツ推進委員が普及に取り組むニュースポーツです。これなら年齢に関係なく、どんな人でも楽しめると思ったんです」と加入したきっかけを語ります。

平成29年からは、障がいのある方に向けた講習会を始めました。

どのスポーツや伝統文化、芸術も学んでいます。

また、平成24年度から中学生の体育の授業で、武道とダンスが必修化されました。

武道の種目では、技術やルールを安全で効率的に指導するだけでなく、その文化と伝統、精神を伝

「障がいの有無に関わらず楽しめるこそ、どんな人でもです。例えば視覚に障がいがある方には音の出るボールを使ったニュースポーツを紹介します。将来的には、市内各地の公民館などで実施して地域の活性化にもつなげたいですね」と飯塚さん。

また、「縁の下からスポーツ大会を支えるのも大切な使命。マラソンで競技者の誘導をしたり、安全のために交通整理をしたりしています。全力を出した競技者のすがすがしい笑顔を見るとこちらもうれしくなるんです」とやりがいを爽やかな笑みと共に語ってくれました。

えるものであるため、地域の武道指導者の方が指導している場合があります。

いずれも、地域の方にお願ひすることで地域交流が活性化し、児童生徒も学校内では学ぶことのできない社会の規律や礼節を学べる貴重な機会となります。